

新井力夫フルート リサイタル モーツァルト ソナタのタベ

当湘南日独協会々員の新井力夫氏がフルートリサイタルを開催します。ピアノは三浦郁子氏。

曲目 ソナタ ヘ長調 K. 13

ソナタ ト長調 K. 301 (293a)

ソナタ ヘ長調 K. 376 (374d)

ソナタ ホ短調 K. 304 (300c)

ソナタ ヘ長調 K. 377 (374e)

日時 2004年6月24日(木)19:00 開演

会場 横浜みなと未来小ホール

入場料 3,000 円

チケット取り扱い ヤマハ藤沢店 TEL 0466-27-0231

「素顔のウィーン」

高橋愉紀さんが随筆集を出版

当湘南日独協会会員でウィーン在住のピアニスト・高橋愉紀さんが、このほど10年にわたって書いてこられた「ウィーン便り」をまとめて随筆集「素顔のウィーン」として出版されました。★カフェハウスのこと★古城でのピアノリサイタル★ウィーンの結婚式★ウィーンでの出産★ユーロの世界…など興味深いウィーン的生活の様子が48編の随想に生き生きと語られています。B6版、190ページ(カラー8ページ)定価1,800円(税込み)。江ノ電沿線新聞社刊。本書は有隣堂藤沢店でも取り扱っています。

本書に関するお問い合わせ…江ノ電沿線新聞社

TEL 0466-26-3028

湘南日独協会 2004 年度活動予定

どうぞ今からご予約下さい。

■ 6月26日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2Fローズルーム

■ 7月31日(土) 第34回例会 18:00～

湘南の夏を彩るビアイベント

ドイツフェア

出演 楽団「エーデルワイズ カペレ」

合唱団「アムゼル」

会場 藤沢市民会館第1レセプションホール

アナトールカフェ & おもちゃだいすき

当湘南日独協会々員の山川芳央氏がこの春念願のカフェと玩具店を鎌倉市由比ヶ浜大通り六地藏バス停近くにオープンしました。カフェでは珈琲いろいろ、スリランカティいろいろ、そば粉のクレープ、ワインなどを扱っています。玩具店ではnaef、カプラ、ケラー社、PLAYSAM社などのヨーロッパのおもちゃを中心に素敵な玩具を取り揃えています。どうぞお出かけ下さい。毎週火曜日休み。 TEL/FAX 0467-22-2827

<http://www.asahi-net.or.jp/~sf2a-iin>

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 6. NO. 3. 通巻33. 発行 2004.5.22.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0055 藤沢市南藤沢 8-9 中丸ビル 2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第33回例会【講演会】

新しいドイツ・新しいヨーロッパ

日時 5月22日(土) 午後1時30分～3時30分

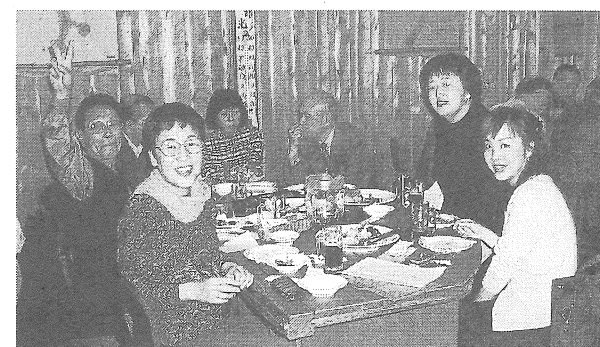
講師 三輪晴啓氏(駒沢女子大学教授)

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2F ロータスホール

講師からのメッセージ

89年の「ベルリンの壁」崩壊を機に、ドイツもヨーロッパも、そして世界も大きく変わった。大戦後つづいた冷戦体制が終わり、新しい秩序が模索されている。しかし、民族・宗教の相違などに基づく地域紛争が頻発し、混沌状態がつづいている。そのひとつの帰結が01年9月の米国での同時多発テロであり、それに発するイラク戦争である。

こうした中でのドイツ・ヨーロッパの新秩序への歩みを中心に、この10年を振り返ってみる。



4月の懇話会“湘南ビールを楽しむ会”より

湘南ビールに酔う

会員 西澤英男

平成16年4月24日(土曜日)、生憎の雨模様で、折角のドイツ仕込みのビールが水っぽくならなければよいがと懸念しつつ、J R相模線香川駅から歩くこと数分、熊澤酒造の一角、湘南麦酒蔵に着いた。ここは昔の酒蔵を改造した杉造りのレストランで、今なお杉の香が微かに漂い、木の温もりを感じさせる雰囲気だ。テーブルも酒樽の蓋に使われていた分厚い杉の板で作られていて、杉へのこだわりと遊び心が嬉しい。

若い熊澤社長のビール造りへの心意気と情熱は、代々伝わる造り酒屋のDNAのなせるわざだ。飲み放題というおまけもついて、初めの懸念はどこへやら、ビールへの期待がいや増しに増す。各テーブルに陣取った面々を見渡すと、いまや遅しとビールを待つ表情が見てとれる。ここに至って気分は最高潮。ビールは一人で飲むものではないとつくづく思った。ミュンヘンのオクトーバーフェストを想像すれば得心がいこう。順に出された4種類のビール入り大型デカンタはまたたく間に空となる。それぞれが異なった自己主張のある味で、これは地ビールならではのもの。まさにご当所の水と麦芽とホップのなせる神の恵だ。

飲みながらふと考えた。酒には醸造酒の文化と蒸留酒の文化がある。つまり、大勢で飲む酒と一人で飲む酒だ。ビールや日本酒は仲間とともに賑やかに飲み合うからこそ美味い。一方、ひとりソファーにくつろぎ、クロフツの探偵小説などを読みながら静かに飲むウィスキーやブランデー、これも酒の味わい方の極致だろう。酒の効用ここに極まれりということか。ともに至福のひとつときである。

遠来の客人鎌田さんの“金髪美人とビールを浴びる”話は席席に錦上花を添え、これは何かなんでも体験せねばなるまいと堅く決心したところでお開き。ほろ酔い加減でついた帰途は雨が上がり、月が照り、星がまたたく夜道であった。

何はともあれ、幹事役熊澤さんのお陰で、会員懇話会が突如大ブレイクした一タとなったのである。

熊澤酒造訪問記

会員 廣川貴男

4月24日夕刻、相模線香川駅に降り立ち、40人余りの会員とその家族・友人は、そば降る雨の中、三三五五、熊澤酒造を目指した。歩くこと12～3分、かかる呂外僻処に似合わぬ大きな建物郡に辿り着いた。造酒(みき)の巧たちが立ち働く醸造所の隣接地には、酒蔵を改造して開店したという”Mokichi Trattoria”なるイタリアめかしき名のレストランがあり、そこの地下室に通された。階上のざんざめきをよそに静謐の空間で、何やらミュンヘン一揆を企んだ悪党どもの巢窟を思わせないでもない。板壁には奇妙な形の照明が取り付けられ、明りを落せば魔女の厨と見紛うばかりだ。所はよし、時はよし、ここは一番、シノベのディオゲネスの顰みに倣って、樽中の哲人になろう、壺中の詩人になろう…などと夢想しながら、隣席におわす艶冶な令婦人に上気した悪相を向け話しかけてみた。が、どうしたことか、わが内奥のムウサはいっかな天翔けず、件の麗人は“この人、何言ってるの!”と言わんばかりに玉貌を顰められ、ついで何事も起こらなかった。

閑話休題。会は司会の挨拶に続いて、当酒造所の社長・熊澤茂吉氏(世襲名)が酒造りにまつわる秘話などを語って下さった。隆盛期、人手が足りず、網走まで出かけ、娑婆に出て来たばかりの怖い“お兄さん”たちをも雇用したという。それかあらぬか、醸造所内にはタトゥー(彫り物)姿の職人たちが徘徊していた…などという思ひ出話は殊の外、興趣を惹かれる。さぞかし、斬(キ)レのよい刻(コク)のある酒ができたに違いない。次いで立ったヴァイマル独日協会副会長・鎌田哲男氏は、ドイツでの“ビール浴”の話をされた。“浴びるほど飲む”という言い方はあるが、“ビールを浴びる”とは…私なぞ、たまげず abirren する他ない。

程経て、漸く当所自慢のビールにありつける仕儀と相なった。「ビター」、「リーベ」、「ルビー(鋼玉)」と名付けられた各種ビールが順に供された。何とはなし“苦界から天上へ”の階梯の隠喩とものとれ、酔余の果て、危うく昇天しそうになった。ディオニュソスの愛子を自称し、斗酒なお辞せずの酒仙たる私には、日本酒「天青」の方に食指が

動いたが、天に昇り青山ゆきとなるのも如何がかと上分別し断念した。それにつけても、この曰く言い難いビールの美味を何んと形容したらよいものか。語彙貧しき私には、“甘い”と“苦い”の中間語がない、“辛い”と“渋い”の間に存する微妙を表わす語がない。七味唐辛子の七味も言えぬ。そこで苦し紛れに、「リーベ」を評して“モーツァルトの或るラールゴの一小節にも譬うべき味”とか、「ルビー」を叙するに“徐福が紀州の秘境に探し求めた靈薬にも比すべき味”とか、訳の分らない御託を並べることになる。古来、日本人はその優れた感性で、移ろい行く自然や人情の機微を豊潤な言葉で表現してきた。今日の絵の具にない色も、彩りの僅かな異なりにより呼び分けていた。鴉(とき)色、山吹色、梔子(くちなし)色、萌黄色、不言(いわぬ)色、茜色、鴉羽(からすは)色…等々、微細にわたっている。玉蟲色だってあった。現代の我々は顔色無しである。とまれかくまれ、味表現は乏しい限りである。記録に留むる術もない。

宴酣(たけなわ)、微醺を帯びた酔眼に映る懐かしい貴顕・聞秀を見廻すうちに、ふと、嘗て愛誦した或る五言絶句が、何んの脈絡もなく胸裡をよぎった。

勸君金屈卮
滿酌不須辭
花發多風雨
人生足別離 (干武陵)

遅ればせに調子づき悪のりして、更に即興の戯詩(ざれうた)を誦した。

注げや友垣いま一ちよくを
明日は酒興の来たるべきを知らず
たれか酒の香甘しというや
なれが驍健おん身が色香もあす時あるを
さればこそ愉しみてあれ須臾のひとつとき

吾に返って、目を卓上に転ずれば、皿には肉片の残りが二切れ三切れ。“うちの老いさらばえた黒猫母娘・犬猿仲のネネと淀に持ち帰れたら”などと、さもしいことを考えつつ、春宵のひとつきを次の狂歌で締め括った。

"Trattoria 大トラ小トラ tratschen"